

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	株式会社 うりんこ
公演団体名	劇団うりんこ

内容
<p>【コロナ対応版(時間短縮)ワークショップ内容】</p> <p>(導入)活動の目的と概要を伝えます。アイスブレイクのための活動を行います。</p> <p>(展開)共演場面の内容を伝えます。場面設定を共有したうえでセリフを考えて、即興的に演じながら、共演場面を創作します。</p> <p>(まとめ)共演児童を決定します。共演児童は、実際の舞台と同サイズにテーピングした場所を使い、参加共演場面を演じます。他の児童は、見学します。</p> <p>【共演の内容】</p> <p>共演の児童生徒は、10人程度(4年生以上)を予定しています。</p> <p>劇の冒頭部に児童生徒と一緒に創作する給食準備の場面で共演を行います。俳優と一緒に給食を受け取りに行く場面を演じます。今日のメニューや給食への期待を会話したり、食缶などを重たい様子で運ぶ演技をします。台詞は、児童生徒のアイデアを活かして作り、上演校独自の共演場面を創作します。</p>

タイムスケジュール(標準)
感染症拡大防止の為、公演当日または開催時間を縮小してワークショップを実施する場合は以下のタイムスケジュールで実施します。
0～5分＝アイスブレイクの活動
5分～25分＝共演場面の説明、共演場面の創作
25分～45分＝共演場面の練習

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
主講師1名、補助者1名 計2名

学校における事前指導
共演場面の内容を漫画やイラストで書いた手紙を送ります。手紙を実施学級に掲示し、児童生徒に周知を図ってください。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	株式会社 うりんこ
公演団体名	劇団うりんこ

演目
演目：「小学校は宇宙ステーション」 原作：山田加代子「小学校は宇宙ステーション」（ポプラ社出版） 脚本・演出：佃典彦 美術：青木拓也 照明：四方あさお 衣裳：木場絵里香 音楽：内田アダチ 音響：椎名 KANS 公演時間（60分）

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
出演者：5名 スタッフ：1名 合計：6名

タイムスケジュール（標準）					
到着	仕込み/リハーサル	本公演	内休憩	撤去/積込	退出
9:00	9:00～11:30 /11:30～12:15	13:30～14:30	無	15:00～16:30	16:30

実施校への協力依頼人員
・公演実施前 上演演目のポスターを校内などに掲示し、児童生徒への周知にご協力ください。 また、本事業のパンフレットの配布をお願いします。
・公演当日 保護者などがご来場の場合は、保護者受付・携帯電話のマナーに関するのインフォメーションをお願いします。

演目解説

【あらすじ】 小学校4年生のイクミちゃんは、この頃学校が楽しくありません。アイドルを目指しているキララさんやマリナさんが、イクミちゃんに強くあたるのです。そんなイクミちゃんの学校の給食室で事件は起こりました。給食室の地下に、60年前に不時着した宇宙船があって、ホープ星人たちを星に返すために、イクミちゃんのおばあちゃんや学校の校務員さんが宇宙船を修理中だということです。願い事が叶うというホープ星を目指して、おばあちゃんたちが地球脱出を計画していることを知ったイクミちゃんは「私も一緒に行きたい!」と言いました。地球にいてもいい事ないし、学校も楽しくないから宇宙に逃げ出したいと思ったのです。発射の時が迫りました。イクミちゃんを乗せた宇宙船は、本当に飛び立ってしまうのでしょうか? もう一度夢をみたい老人たちと、夢なんかないと思っている小学生が、「夢」からエネルギーをもらう物語です。

【みどころ】

クラスの子との軋轢を感じ学校生活を楽しめていないイクミちゃんは、一度は地球から逃げ出したいと願いました。でも発射の時になって「逃げるだけでいいのかな?」と葛藤します。そして、友人関係の課題を乗り越えようと立ち向かいます。夢ができたことで立ち向かうエネルギーがうまれたのです。イクミちゃんの心の変化に児童生徒が、深い共感と感動を得る演劇です。歌やダンスも適所に入り、初めて演劇を観る児童生徒も集中を持続させ、演劇を楽しむことが出来ます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

共演の児童生徒は、10人程度(4年生以上)を予定しています。
劇の冒頭部に児童生徒と一緒に創作する給食準備の場面で共演を行います。俳優と一緒に給食を受け取りに行く場面を演じます。今日のメニューや給食への期待を会話したり、食缶などを重たい様子で運ぶ演技をします。台詞は、児童生徒のアイディアを活かしてつくり、上演校独自の共演場面を創作します。

児童生徒とのふれあい

上演後、舞台の見学や舞台裏の見学を計画しています。劇中に変化する背景の仕掛けを間近で見学してもらいます。希望がある場合、音響のオペレーションを体験することも可能です。舞台装置の仕掛けを間近に見たり効果音などを出す体験は、舞台芸術への興味関心を強く喚起し未来の芸術家育成・観客育成につながるものと考えます。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、準備作業の見学や、バックステージツアー、俳優と交流などの児童生徒との触れ合いを自粛することがあります。